

「住民理解とは」質問相次ぐ

大鹿 JR説明会に130人

JR東海は27日夜、今夏にも大鹿村内で着手を計画するリニア中央新幹線本体工事に伴う周辺工事などの説明会を村交流センターで開いた。JRや送電線の建設に当たる中部電力の担当者らが出席。昨年6月以来の開催で、地元住民ら約130人が参加した。参加者からは、同社が工事着手の条件としている「住民理解」の考え方への質問が相次いだ。



JRは、村外と行き来する要路の県道松川インター大鹿線の拡幅総延長を約9300m、直線区間の幅員を7.5mとした。中電は、送電線の建設に伴い動植物や景観など、6項目の自主環境調査を

すると説明した。一方、村や住民が要望していた同県道のリニア建設計画で、「住民理解」を巡り批判的な意見が出た説明会＝27日夜・大鹿村

リニア 新時代

全線二車線化と送電線の地中化工事は見送る考えを示した。

JRは住民の理解を得た上で工事に着手するとし、理解を得たかどうかの判断は同社

がするとしている。参加者からこの点を問われた沢田尚夫・中央新幹線建設部担当部長は、全員から同意を得るのは難しいとし、「説明会などでのやりとりやご意見を踏まえて判断する」と返答した。

道路改良工事と本体工事が並行して行われる見通しに、男性住民から「住民軽視」とJRの姿勢を批判する一幕もあった。残土の仮置き場とする川べりに「崩れないか」といった懸念や、交通安全対策に関する要望もあった。

説明会は、1人1回3問までの質疑に15人以上が質問し、3時間以上にわたった。沢田部長は終了後の取材に、「前回の説明会より理解を進めていただき、(住民との)溝は小さくなったと感じる」とした。工事着手の前提となる住民の理解について、判断する理由や時期については示さなかった。